

参考となる成果整理表

野生アワビの筋萎縮症原因ウイルス保有状況検査

福島県水産資源研究所 種苗研究部

1 部門名

水産業－栽培漁業－アワビ

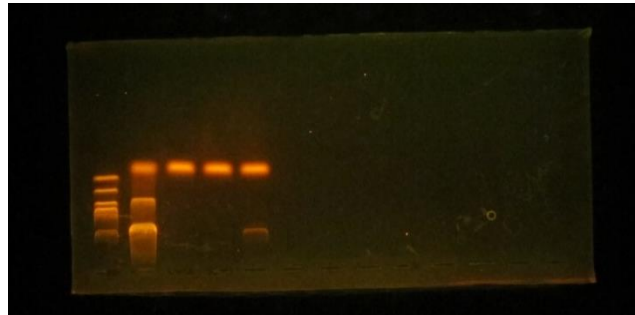
2 担当者名

山野辺貴寛

3 要旨

アワビ種苗生産において大量へい死を発生させることもあるアワビ筋萎縮症について、原因ウイルスが特定され(仮称 AbALV)、ウイルス遺伝子の解析により PCR 検査が実施可能となった。かねてより痩せ症状を呈する個体が散見されていた県内海域の野生アワビについて、同手法による検査を実施したところ、当該ウイルスの保有が確認された。これにより、採鮑漁業及びアワビ種苗放流において防疫体制の構築が可能となる。

- (1) 2022 年に漁業者が採取したアワビのうち、極端な痩せ症状を呈していた 2 個体について、2022 年から 2023 年にかけて病理診断を実施した。そのうち、筋萎縮症 PCR 検査(腹足部筋肉より DNA を抽出)でウイルスを保有していることを確認した。他の魚病原菌等は確認されなかった。
- (2) 同手法によりアワビのウイルス保有を確認したのは、県内では初の事例であった。
- (3) 野生アワビ、放流用種苗等でウイルス保有検査が可能となった。



左から DNA マーカー(上から 100bp、250bp、500bp、750bp、1,000bp、2,000bp)、陽性対照(1,944bp)、陰性対照、検体①、②であり、検体②が陽性であった)

図 PCR 増幅産物電気泳動結果

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 栽培漁業対象種の放流技術に関する研究(ヒラメ)

5 主な参考文献・資料

- (1) Tomomasa Matsuyama et al. (2020) A novel Asfarvirus-like virus identified as a potential cause of mass mortality of abalone. Scientific Reports volume 10, Article number: 4620